

那珂市議会 産業建設常任委員会記録

招集日時 令和7年4月22日（火）午前10時
招集場所 那珂市議会全員協議会室
出席委員 委員長 寺門 勲 副委員長 小宅 清史
委員 大和田和男 委員 笹島 猛
委員 遠藤 実 委員 福田耕四郎
欠席委員 なし

職務のため出席した者の職氏名

事務局長 会沢 義範 次 長 萩野谷智通
次長補佐 三田寺裕臣

会議に付した事件

（１）調査事項について

…道の駅の運営・検証ついてに決定

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長 皆様改めまして、おはようございます。

本日は産業建設常任委員会にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

開会前にご連絡いたします。換気のため廊下側のドアを開放して常任委員会を行います。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ご連絡いたします。会議は公開しており傍聴可能といたします。また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送します。会議内での発言は、必ずマイクを使用し質疑・答弁の際は、簡潔かつ明瞭にお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は電源をお切りいただくか、マナーモードにご配慮をお願いいたします。

ただいまの出席委員は6名でございます。欠席委員はございません。

定足数に達しておりますので、これより産業建設常任委員会を開会いたします。

職務のため議会事務局職員が出席しております。

これより議事に入ります。

調査事項についてを議題といたします。

まず、前回の委員会で副委員長より提案がありました。

正副委員長で内容を精査しましたので、改めて副委員長から説明をお願いいたします。

副委員長 おはようございます。調査事項についてということで、前回の委員会でこういう調査事項でということでご提案をさせていただきました。前回一読させていただきましたので今回は控えさせていただきます。ただ、これ全部となりますと、なかなか大変な部

分、ボリュームも大きいですし、そもそも議会がやるべきところは何なのかというところで絞って、調査事項という形で今年1年間調査をしていきたいというふうに思っております。この中で、特にこれはやるべきじゃないかというようなところを皆さんで話し合って決めていきたいところなんですけれども、私の思うところというと方針的な部分は、あまり議会が口出すべきじゃないのかなというふうに思う部分もあります。例えばラーメン屋を入れてくれとか、こういうものを売ってくれとかっていうのはちょっと議会がやることじゃないのかなと。しっかり執行部がやることについて精査をする、それからあと1番は市民のためになるというところが大事な部分ですので、そういったところも調査事項として入れていければなというふうに思っております。ということで皆さんの意見をいただければと思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。それでは、ご意見がございましたらお願いいたします。

大和田委員 先ほど副委員長からお話もあったとおり、なかなかこのボリュームのある、前も聞きましたけどボリュームのある内容だと思いますが、基本的にこういった内容を一つずつ潰していくっていうことは重要じゃないかなと思いますので、絞る必要も、これいつまでについてということもないのかな、別に。

次長補佐 任期というか、来年の3月で切替えになりますので、そこまでには調査完了する必要があります。またあと予算とかに反映させたい部分があるのであれば、やはり11月ぐらいの全員協議会で報告する必要があるのかなと思います。

大和田委員 時間的余裕も余らないという状況、プラス執行部もこれを進めながら今年度中にいろいろな報告案件が出てくるのではないかなと思うので、内容はいいと思います。ただ、その精査については逐一していけばいいと思いますので、調査事項という内容はもうちょっと、ぼあっとして中身はこれですよっていうことで、よろしいのではないかと思います。

以上です。

笹島委員 調査事項の1番、第三セクターの在り方。これからですよ、執行部のほうも。これは我々の意見を反映してもらえるのかな。

副委員長 例えば、経営的な部分っていうのは議会が口出すべきところではないと思うんですが、第三セクターというのは昔からある制度ではありますけれども、やっぱり失敗例、成功例ある中で、どういうふうにした組織にしたほうがいいのかという提言をするということとはできるかなというふうに思います。

笹島委員 結構1番大事だと思うんですよ。骨格になると思うんですよ。なぜかっていうと大体どこの市町村も常陸太田市も常陸大宮市も始めるときは、商工会、JA、融資を受ける銀行、民間はないのかな、何かそんな感じで形だけつくってるんですよ。全然今言ってた血が通ってないような。比率が55%か、株主が市役所があれしったりとかって、

ですからみんな何かこのお誘い受けて形だけやるということが多いんですよ。中身がないもんですからそれで失敗するっていう例が多いんですよ。ここが1番肝心だと思うんですけどね、副委員長はどのように思うんですか。

副委員長 おっしゃるとおりだと思います。基本的に本腰入れてというか、先ほど笹島委員がおっしゃったように、充て職的なところでやらされる第三セクターというのは、恐らくうまくいかない例になってしまうだろうなというのはあります。その組織のつくり方のいう部分では、どういう形がいいのかというような提言、それから株主の構成比をどういうふうにしたほうがいいのかという、あくまで提言、決めるのは執行部側になるかと思うんですけども、そういった過去の事例ですとか成功事例を参考にしながらこうすべきだ、そしてさらには、何度も言いますが市民に還元されないといけないと思いますので、そういったことにするためにはどうすればいいかって提言するのが議会かなというふうに思います。

委員長 福田委員のほうから何かございますか。

福田委員 第三セクターということでの利点、課題ということ。これは慎重にいったほうがいいと思うんですよ。九州のほうの本拠地の大きい組織があるんですよ。そういうところが入ってくると非常に難しくなる。茨城県では県西あたりにあるのかな。だから、これは慎重に第三セクターのメンバーというのかな、これは慎重にいくべきだろうと。項目の中で出てますけどもやっぱり課題、これは慎重にいかなくちゃならないというのは、私はつくづくそういうところを見てきてるだけに感じます。この道の駅に関してはそれほどではないと思うんですが、J A、そういうところは考え方が別だと思うんですよ。ですから、これは調査項目の中にうたわれてる、これをしっかりやっていく必要があるんだろう、そういうふうに思いますね。

以上です。

委員長 遠藤委員のほうから何かございましたら。

遠藤委員 ちょっと進め方について正副委員長にお聞きしたいんですが、これ何で今頃この調査案件なんですか。

副委員長 3月議会で実施設計という部分で決まってきた中で、用地買収の予算も令和7年度予算のほうで可決されたと。そうすると今度は道の駅の運営についての調査というのが、当委員会の役目かなというような考えで、このような提案をさせていただきました。

遠藤委員 前に調査は終了したのと違うんですか。

副委員長 前回、道の駅についての調査事項ということで、去年1年間の調査事項は終了しまして、今度は今年1年の調査事項の提案でございます。これはあくまで今出してんのは提案でありますので、例えば違う調査事項もあれば、それも提案していただいてももちろん結構でございます。

遠藤委員 逆に言うと、何で去年の12月議会で調査完了にしちゃったんですか。

副委員長 産業建設常任委員会として要望書を提出しようということで、それを提出することでそこまでの調査が完了と、それをもって執行部のほうもパブリックコメントですとか市民説明会とか、そういったものを実施したというような成果があるかなというふうには理解しております。

遠藤委員 普通、調査って調査をして、そのことについては十分委員会で完了したという状況で調査完了なんですよね。あの段階では、我々で市民説明会をやってほしいというふうな全会一致を決めただけだったと思うんですよね。そもそも道の駅に関してはこれから議会として、いろんなことを本来やんなきゃいけないから、これって例えば12月議会以降継続して本来はやってなきゃいけなかったような内容が連なっていると思うんですが、1番大事な12月議会経た3月議会でも調査を継続してこういうことを本来は、常任委員会としてやってなきゃいけなかったはずだとは思いますが、完了にしておいて、また今回から調査をこれやるというのが継続性がないもんだから、どういう意図かなと思ってお聞きしてるんですが。

副委員長 私の理解としては建設と運営とは分けて考えるべきかというふうに思っております。だから、前回の要望書を出した調査事項の中では、建設を進めるにあたって、これを執行部には守ってくださいとか、考えてくださいということで要望書として出させていただきました。それは3月に予算案が出てくるということを理解した上での要望書というふうに冒頭にも書いてありますけれども、今度は運営に関しての調査をしていくべき、委員会としてはしていかなければいけないんじゃないかということで、今回の調査事項は運営についてということであります。

遠藤委員 そういう話は今初めて聞いてるんですが、そういう意図があるんですか、そういう意図だということを12月議会で調査完了とすべきというときに、ご説明されましたっけ。

副委員長 議事録を読み返してみないとどこまで説明させていただいたか、今定かではないんですけども、一応3月に予算が出ることに於いて、その前にということで要望書の冒頭の文書には、そういう旨のことが書いてあったと思います。委員に対してそういうふうな明確な説明を私がしたかと言われると、そこはちょっと申し訳ないですが定かではありません。

遠藤委員 してないと思いますね。議事録見ればしてないですよ。継続性が分からないからちょっと確認しているのであって。

委員長 ただいま、遠藤委員のほうからのご指摘がございましたが、当委員会での調査事項についてどのように進めていくか、それ以外のご意見がございましたらお願いします。

大和田委員 先ほども申し上げたとおりなんですけども、継続してなかったという、それぞれあるんですがこの内容、非常に重要な内容なので、しっかりとこつこつとこの内容を調査していくことがいいと思います。

笹島委員 これ調査事項、八つくらいだね。我々調査するのも結構だけども、主体性を持って

やりたいじゃないですか、反映するのかな、これ。そうしなくても構わないと思ってんのかな。ただ単に形だけつくって調査っていうことでやろうとするのか。我々主体性を持って議会としてね、やはり、今までもアドバイスとか助言いろんなことをしたんだけど、ひとつも聞いてくれないわけですよ。私の個人的な考えはね。だから少しでも聞いてくれるんだったら、やる気がでるけどさ。先ほど副委員長が言ってた後追いたいなことでは、やる気なくなるんでね、その辺どうなのかなと思って、分かんないですよ、私これから先のことから。

副委員長 当然、委員会での調査事項でございますので、それに対しての提言を執行部のほうが全て無視するっていうことではないと思うんですね。最終的には議決権を持ってるのは議会でございますので、委員会が提案したのに対して全くそぐわないものができてしまったという場合には、当然議決できないということもございますので、その辺のところをご留意いただいて執行部のほうに提言をするということでもあります。

笹島委員 今までずっと調査してきました。何かありました、提案提言で聞いてくれたことって具体的に。

副委員長 以前に出した提言とかちょっと私存じ上げないんですけども、昨年出した4項目の中での1項目、市民説明会とパブリックコメントというのは、執行部のほうで実施してもらったというような成果ではあると思います。その2番以降のことはまだこれから、なので、どの程度それを反映されるのかというのは、ちょっとまだこれから見守っていくべきところだとは思います。

笹島委員 市民説明会、1日2回だけやりましたね。それはもう前から予定してたことなんですか、あとパブコメも。執行部のほうでは、我々が言ったからあれではないんでしょう。

事務局長 市民説明会の部分につきましては、産業建設常任委員会のほうで要望書の提出する、執行部のほうとしても、基本設計、基本計画のほうで策定された後に予定はしてるというようなお話ではあったかと思います。時期的な部分は、そこまで言及したっていう記憶はちょっとすみません、私のほうでは持ち合わせてないんですけども、ただ提出したことによって年明けすぐに説明会とかパブリックコメント、そちらのほうを実施した経緯っていうのはあるかとは思います。

笹島委員 何回も言ってるけど、基本計画、実施計画取りまとめたよね、今年にそれでね、予算を通った。今度は造成工事、来年、それから本体工事が再来年。それから4年後ぐらいに完成と肅々とやってるよね。申し訳ないけどさ、何かこう、我々が提言提案したところに、ストップするわけでも何でもなく、自分たちが決めたものを肅々という感じだから、多分局長が言ってたとおり、前からそういうふうにして何月何日に説明会やってパブコメは何月何日ってもう決めたと思うんですよ。我々が何かそういう助言アドバイスしても全く聞いてないんですよ。それが不満なんですよ、正直言って。だからこういうことをやっても構わないけど、何か少しでも聞き入れてくれと。やってる意味が

ないんだよね。我々、議員としての何かプライドがあるよねやっぱりね、それは怒りを感じるんですよ。だから、正直言って少しは聞けとがんと持っていきましょよ、副委員長。

副委員長 議会としてももちろん放置していい問題ではないと思うんですよ。言っても無駄だから、何も提言しないとか、議会で話し合っても意味がないって言ってしまっただけでは、ほっとくことになってしまいますので、議会としてそれはあってはならないことだというふうに理解しておりますので、やはり議会は議会としての意見をしっかりと出させていただいて、執行部に対して、その中でここだけは守ってくれというようなことを強く言うということは行ってもいいんじゃないかなというふうに思っております。

笹島委員 そのとおりです。だから結果を少しでも欲しいんですよ、ただ単に我々がいろんな提言を言いつ放し、何のあれも本当にもない中でやったかいが、やりがいがないですよ、正直言ってね。こうやって集まって云々っていうね、少しでもいいですよ。こういうことを議会としてやりましたって、皆さんの、いろんな報告会だとか何とかで言えるじゃないですか。やっぱりそういう成果も欲しいですよ、少しでもいいですよ。お願いしますよ、何かそういう得られるもの我々にも常任委員会として。

副委員長 それをこれから調査事項として委員会のほうで組立てていきたいというふうに考えております。

福田委員 笹島委員も言っていましたけど、議会そのものが、今回のこの道の駅に関してはちょっと遅れてるよね。執行部がどんどんどんどん進んでいる割には、後手に回っちゃっている。

今回のこの調査、（４）藤森先生のデザインですか。これが果たして景観と調和しているのか検証をしたいというようなこと。これ提出するのは来年の３月でしょう。例えば調和してないと、仮にした場合にこの時期で提出して間に合うかな。間に合わないと思うんだ。だからそういうふうにちょっと後手に回っちゃってんだよね。だからこれはもっと先に先に先手先手でいかないと。今指摘があった、そういうふうに後手に回っちゃうような、そういう感じが強く感じられるんですよ。どうなんだろうその辺は。

副委員長 福田委員おっしゃるのはもっともだと思います、これだけボリュームありますけれども、時期的に先に議会のほうで委員会で検証をして提出すべきものは速やかに３月まで待たずに提出してもいいのかなというような印象を今受けました。この中で優先順位を決めていって、時期的な部分で優先順位というか時期的な順番、それを決めていって、それで順次提言していくというやり方は確かにそうだなというふうに今思いました。

福田委員 調査の内容によっては一括じゃなくて決まった順から、どんどん提出をしていくということでもいいんですか。

副委員長 私は、それはいいなというふうに思いました。

福田委員 それはどうなんですか。これ事務局あたりではそれは可能ですか。

次長補佐 要望書になると思うんですけども、要望書をその都度出していくのは可能だと思います。

福田委員 分かりました。

副委員長 その中で、結果的に最後まで残るテーマも当然出てくると思いますし、それは確かにいいやり方かなと本当に今思いました私も。

遠藤委員 ちなみにこれ、どうやって調査するんですか、それぞれの項目。

副委員長 調査方法は項目によって変わってくるとは思います。場合によっては専門家を呼ぶという手段もあると思いますし、視察に行くという手段もあるかと思っています。やはり道の駅は1,260でしたっけ。先行事例がそれだけありますので、そういった中での参考資料、それから市内の人の動向ですとか、そういったものも参考にしながら調査を進めていくという形になるかなというふうに思います。

遠藤委員 ほかの委員会は、議員と語ろう会を開催したりしてますが、当委員会は何でやってなかったんですか。

次長補佐 産業建設は2回去年行っております。教育厚生も2回、総務生活は3回行ったので議会だよりに出ているんだと思います。

遠藤委員 市として市民説明会をやっているのは、そのあと議会としての調査は必要なものはやってもいいかもしれませんが、今やることは市民の代表なんで議員ってね、市民の声をやっぱりもっともっと聞くっていう機会つくったほうがいいんじゃないですか。市民の方が道の駅にどう思っているか、いろんな方の声を聞くということをちょっと、どうせ議会がやるならですよ、今そういうことが必要だと思いますけど、どうですか。

委員長 昨年度、議員と語ろう会を例に挙げますと2回だったんですけども、今年度は私の考えですけど、できたら3回ぐらい当委員会で議員と語ろう会を実施させていただいて、高校生とか農業者、そういった形で3回ほど議員と語ろう会も実施してみたいなってますんで、皆様方のご意見もいただきたいと思います。

福田委員 今、遠藤委員から提案あったのは、当委員会で市民の声を聞く、あるいは議会全体の中で聞く。その辺は、当委員会で聞くっていうことですか。

遠藤委員 今の運営は議員全体で聞く語ろう会じゃないんですよね。各委員会に分割してやっているということだから、我々の委員会でこの道の駅に関しての意見を聞くということをもっとやったほうがいいんじゃないでしょうかっていうご提案です。

福田委員 道の駅の中身だね。市民の声を聞く、総体的なことで、あるいは一部分のことで聞くのか。総体的なことで聞くのか、その辺差し支えないの。

副委員長 市民と語ろう会は、委員会のほうで設営計画をつくってやるということでありまして、例えば遠藤委員が言ってるのは、例えば農業生産者とかに絞らずに不特定多数の人っていうことですかね。

遠藤委員 それはやり方を任せですが、今やっぱりこの道の駅、関心が高いところもあるし、

実際にそういう予算が通ったという部分になると、ちょっと一步進んでいく感じになるわけでしょう。それについて意見がある方もあるだろうし、場合によっては道の駅についてまだまだよく知らない人も多いと思うんですよ。これは多分実感としてあるんで、そういったものを、今の市民が今のリアルタイムで道の駅についてどういうふうに考えていらっしゃるのか、そういう機会を議会として聞く必要があると思うんで、僕は本当は議会全員で聞いてもいいと思うんですけども、今それは議会運営委員会の運営上、そうではないというのであれば、窓口は我々常任委員会ですから、我々でやり方は、いずれにしても市民の声を聞くような機会は今たくさん設けたほうがいいと思ってご提案をしました。

副委員長 今までのほかの委員会も含め語ろう会でのやり方を見ると、市民の声を聞くというやり方ですので、道の駅の説明をこっちから全くせずに一方的に市民の声を聞くということで、果たしてちょっとできるかどうか検証する必要があるかと思います。ただ、その選択肢としては排除すべきことではないと思います。

福田委員 常任委員会で語ろう会を開催しても、我々答弁っていうのはできない。

遠藤委員 恐縮であります、僕ら答弁する立場じゃありませんからね。今までの、語ろう会見ててもちょっと僕気になってる部分があるのは答弁はしなくていい。市民が話ししてくださることを聞いて、そうだねそうだねと共感をして、また意見があれば我々も語ろうなんで、これについてこうだね、そういうことがありますよね、それでいいのに、今までの僕が見た場面場面では、執行部みたいな答弁を一生懸命しようとして、なかなか大変だみたいな場面を見ているんですが、答弁をしなくていい、僕らは執行部でない。僕らは市民の代表なんで全く市民と同じであるから、市民の皆さんはどういうふうに思ってるか、ただそれについて、説明はもし必要であれば若干、市民説明会で使ってた今こんな感じなんですって説明した上で、どう思ってますかっていうことでお聞きするというのが基本のスタンスでいいと思うし、あと場合によっては市民の方ちょっと間違えてらっしゃる場合があつて、僕らを執行部だと思って、どうなんですかこうなんですかっていう方がちょっとこの間の陳情の方もいらっしゃったようだけれども、そうじゃない、僕ら答弁全くする必要はなくて、そうですねと聞いて、これについて議会としてはこうやっていて、こういう議論をしていて、どうなんですかねって、そういう語ろう会が本来だと思っているので、別に答弁はしなくていいと。ただ、市民の方が、今の道の駅についてどう思ってるかをやっぱり広く公聴する、広く聞くという立場は僕ら議員なんで、代表ですから。すごくそういうことはもっともっと今タイミングとしてはやるべきだろうと、場合によっては、我々が自らこういう調査研究するのも必要とかかもしれませんが、僕らが今やることはまちに出て市民の方と一緒にいろんな話を聞く。それについてまたそこからフィードバックして市民の心配は何なのか、それをまた形づくって勉強して、またそれを執行部に投げていくとか、そういうことなんだろう

うと思うんですけどね。僕が思う在り方ですよ。皆さんはどう思うか分かんないです。

副委員長 今年に入ってだったかと思うんですが、パブリックコメントのほうを募集いたしまして250件でしたっけ。281件の意見が来てるというところで、私たちが委員会で今、今ですよ、今この時期にそういう聴く会をやって、そこで一応市民の声をもらってる中でそれ以外何を今委員会として、市民の声を求めますかという、時期は今じゃないのかなって思うんですがいかがですか。

遠藤委員 今だよ今。今だよ、逆に今だって。今何をやるってそれをやしないと駄目でしょう。今、今ですよ。

副委員長 パブリックコメントで出た意見との整合性というか、それはどうすればいいですか。

遠藤委員 方向性間違えないでいただきたいのがパブリックコメントというのは、あくまでも市の進めてることに対して市民がメールなりファクスなり窓口で出す市民の1個人としての意見なんですよ。それについて、一応市としては全部回答出てるじゃないですか。一応答弁は出てる。それはあくまでも市民と執行部のやりとりだけであって、これ答弁出てるけど、市民はあれで全員満足してる、納得してると思ってますか。当然そんなことないですよ。全然納得しないこんなんじやって言うふうに言ってる方も多いんですよ。ただ、それはもう1回コメントしたらそれについて執行部は答弁は書いてくださった、あれすごいきちっと1個1個やってくださったから、これは僕は職員に敬意を表したいと思っていますけども、ただあれはあれだけのものです。あれはあれだけのものなんです。市民としては、生の声でもっと言いたい。例えば僕らが今こういうふうな流れになってますよっていう話をした上で、またさらに言いたいとかそういうこの会話ってというのが語ろう会、語ろうですからね、これ全然整合性もまたあれ執行部の手法であって、我々は議員として市民の声を広く聞くという広聴機能を、語ろう会で作るということなんて全然違うものですね。

副委員長 確かにそのメソッドは違うかと思うんですが、行き着くところは、私たちはいただいた意見を執行部に出す。回答が必要なものは回答を執行部からもらうっていう形なんで、行き着くところはやっぱり執行部なので、回答は同じになるんじゃないかなというふうに思うんですが。

遠藤委員 二元代表制なので、執行部は執行部でやる、議員は議員で市民の声を代表してぶつけるという立場はやっぱり二元代表制ですから違いますよね。例えば、そういう論法でいくとここで調査研究したものをぶつけても結局同じになっちゃうじゃないですかっていう、そこを諦めると同じ答弁になっちゃいますよ。

副委員長 これが先日パブリックコメントをやってない段階であれば非常に重要なことだったと思うんですけども、パブリックコメントであれだけの回答が出てる中で、今やって違うものを何を求めるのかっていう、それちょっと難しいかなあと思うんですが。

遠藤委員 市民の何割がパブコメを知ってたと思いますか。常任委員会で言ったと思うけど、

パブコメって1か月間とるもんなんですよ。あれだけ3週間だったんですよ、通常より期間が短くて、年末年始の期間だったから、なかなかやっぱりお正月とかね年末年始はみんなちょっと正直世間的に言うとそのところじゃない状況もあって、こんなパブコメやってたなんて知らなかったっていう人が多いんですよ。こういうことをやってたのって、だからそれはパブコメあれだけ上がったから市民の声を聞く必要がないということであれば全く違って、改めてやるということが必要であって、実際市民説明会だって、どれぐらいの人が開催したってのは知ってたか。ほとんどやっぱり知らないんですよ、皆さん、ちまたを歩いてみるとね。知らないような状況で市民説明会があって、それだって両会場たくさん来られてましたけどね、パブコメだってやればあれだけの件数が、通常よりは期間短く、しかも時期的には年明けの忙しい時期にやってもあれだけのものがあつた。本当はもっともっと時間を置いて時期を置いて広くどうでしょうかって聞けばもっといろんな声が多分聞けると思いますよ。かなりあのときは多分限定されてた時期、時間であれだけのものということですから、僕はもっとこれだけ、30億円かけてつくり年間10億円売らないといけないような、言ってみれば造るとすれば最後の箱物ですから、それはやっぱりもっともっと多くの市民に知ってもらいたいと思うし、我々がそういう市民の声を聞くような語ろう会を何回も開催することによって、道の駅ってこういう課題があるんだねって、多くの市民の方に分かっていたきたいと思うから、議会としてそれをできる、やるためにどういう手法があるかといったら、これやっぱり、きちっとしたこういう語ろう会っていうやっぱりやり方があるわけだから、これはしっかり何回も重ねることによって、多くの市民にそういう道の駅の課題があって、内容はこういう、いいも悪いも含めてあるんだねっていう議論がもっと僕は巻き起こってほしいと思うけれども、議会としてはやっぱりその市民の声をどんどんどんどん聞きましょうねというのは、常に否定されるべきではないと思ってますけどね。

副委員長 おっしゃりたいことは非常に分かるんですけども、語ろう会という形で果たしてそれが、どれだけの効果があるのかなっていうのをちょっと今想像してみたんですけども、パブリックコメントの中での回答をからはみ出るものが果たしてどのぐらい出ることかというものを考えると、ほぼほぼ網羅されてるんじゃないかと思うんですね。結局議会は市民の代表ということですんで議会として何をやるべきなのかっていうと、そこじゃないんじゃないかなと今私は思うんですけども、ただやることを否定してるわけじゃなくて、ただ、今やるっていうふうになったときにこちらで1回、道の駅の説明を会場に来た市民の方にして、それについて意見をもらうっていう形をすると、当然こちらからも答えなきゃいけないっていう形になりますから、なかなか難しいんじゃないんですかね。

遠藤委員 答弁しなきゃいけないという考えは捨ててください。声を聞くんですよ。語ればいいんですよ、僕らは執行部じゃないんですから。市民の声を聞くんですよ。答弁じゃな

いですからね。いいですよ、僕の意見です。

副委員長 要は市民の方の声をどう考えてるのかなって聞くのが語ろう会じゃないですか。この間のパブリックコメントをやったばかりなのに、今市民の方に語ろう会ってというのは、ちょっとどうなのかなってというのが、私の今の時期での考えです。

遠藤委員 パブコメ何人出したと思ってます。

副委員長 出した人数というよりは、あそこで回答のほとんどは出てるんじゃないか、今の段階ですよ。今、執行部から出されてる資料から、出る質問として、あそこからはみ出るものってそうそうないんじゃないかなってというのが私の考えなんですね。だから何人出したとかじゃなくて、あれだけの回答例があるということで大体、そこに収まるんじゃないかなと思っちゃうんですよ。今市民と語ろう会をやったとしても、これがもっと事業が進んでいくと、また違った意見、見方というのは出てくるかと思うんですけども、

遠藤委員 僕はそう思わないんですよ。あれ以外の声も幾つも聞いているんですよ。僕はそう思わない。だから、パブコメやったから市民の声を聞くことはこれ以上ないという考えならば、それはそれで僕は考え方が違います。もっともっと声があります。今聞く必要があると思っています。僕の考え以上です。

大和田委員 確かにパブコメをやったところで執行部が回答を細かくやってくれたというところで、我々議会も市民の声にこたえるっていうことは、先ほど答弁する必要ないって言ったけども我々も議会として検証をしてるんですかっていうことを投げかけられていると思うので、この調査事項の検証という部分もしっかりやりながら、必要であれば市民の声を聞いていきながら、同時に進めていけばいいのかなと思いますんで、やはり検証も大事ですけど先ほどあったとおり、先取りして投げかけていく、その投げかけていくときにやっぱりもう一度その市民の声が必要なかもしれない。という形でこの調査事項を進めていきながら、その検証と先取りを分けるというとおかしいですけど、ちゃんと区別をしながら進めていきながら、必要であれば声を聞くっていう形を取り入れていけばいいのかなと思うんですけども。どうでしょう。

副委員長 先ほど委員長からもありましたように、今年度は語ろう会は3回予定していますので、どのタイミングでどういうふうに入れていくかっていうのは、これから委員会の中で決めていくことかなというふうに思っております。

笹島委員 寺門委員長とか副委員長の考えなんですけど、実施計画はまとまったわけだね。先ほど言った造成工事、本体工事、その次は今度オープンという形でしょう。その中の執行部の中で、今これからやらなきゃいけない。運営だよ。運営について口出ししていくわけでしょう。だからもう切替えしなきゃいけないんじゃないの。相手はもう着々と進めてきてるわけでしょ、ストップかけられるの我々の意見とか、我々のこのあれで。ここはこうだから、ちょっとやめてほしいとかストップしてくれとかっていうそ

れはできないでしょう。

副委員長 もしそれができるとなると予算の膨大な乖離というますか、事業費が大幅に変わってしまったという場合当然議会での予算の執行というのが難しくなるんだろうなというようなことはあると思います。それ以外でストップっていうのはどういうことをおっしゃってるのか。

笹島委員 私が言ってるそこなんです。工事費、人件費が上がって今言った資材が相当上がってる、今29億8,000万円か7,000万円か分からないけども、そういう見積み取ってるかもしれない。これからあと2年3年っていう工事のほうに始まれば2割3割増の当たり前で、そのときに我々がストップかけられるのかと違うんじゃないかと。ということで予算の見積りが違うんじゃないかっていう、それが1番大事だと思うんですよ。血税使うわけですからね、幾ら国とか、今言った補助金のあれだけど、半分以上は市民の我々の税金で出さなきゃいけないわけですから、それもローンで返していくわけですから、大変なことなんです。ここが1番大事だ。これがストップかけられるかっていうことなんです。どうですかこれ。

副委員長 自治法で、議会の予算の承認というのがありますので、可決されなければ当然予算は通らないということになると思います。そういう回答でよろしいですか。

遠藤委員 考え方としてアッパーを決めるっていうことだね。例えば今回で提示されてたものは議決はしたとしても、今後、資材高騰でこれが40億円だ45億円になっても議決するのかというふうな話ですよ。だから、例えば、こういう今までの説明で議決議会全体としては、してしまったとしても、もうそこまでしか言ってみれば認めてないということなんで現状では、これがどんどん資材高騰でこれもこれも追加ですって、それは駄目ですよということは当然議決ですから、否決すれば、できるかどうかはむしろ議会にかかっていて、これは認めないといったら、それで終わるだけの話なんです。

笹島委員 そういう事業のそこはたくさんあるんですよ。東京都の中野サンプラザはもう倍以上になって取りやめになっちゃったんですね、取り壊そうとしてたって。そのほかいろんな道の駅でも、いろんな施設でも結構取りやめているところが増えてるんですよ。これからもっと増えてくるんで、我々もやっぱり既に身近なことなんで、市民も今言ってた、理解得られないっていうことが1番大事なところ、ちょっと違うんじゃないかと予算の何倍も使って、市民から言われたら大変なことだと思うんですね。30億円、50億円、60億円というふうになったときはそれ違うんじゃないかと、話が違うんじゃないかと思うんですよ。ここが1番次の段階で大事なことだと思うんですけど、どうでしょう副委員長。

副委員長 そうだと思います。

委員長 ありがとうございます。皆様方のそれぞれのご意見をいただきましたが、当委員会の調査事項につきましては、いろいろなご意見がございますが、道の駅の運営について

の調査、検証ということで、今後も進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

委員長 ありがとうございます。

今後の予定につきましては、正副委員長で協議して決めていきたいと思いますので、
よろしく願いを申し上げます。

本日の案件につきましては、全て終了いたしました。

以上で産業建設常任委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

閉会（午前10時54分）

令和7年5月23日

那珂市議会 産業建設常任委員会委員長 寺門 勲